検査を材料としたグループワークの中で、適性と進路についての視野を広げる

桐ヶ丘高等学校は、東京都が「不登校経験者や他校中退者にも学び直しの機会を」という趣旨で設立した“チャレンジスクール”として、都内で最初に設置された学校です。三部制（定時制）を敷き、多様な選択科目を設けた単位制の総合学科高校という特色を持ちます。当初の設立趣旨を継承しつつ、新たな方向性として「キャリア教育の充実」を掲げており、社会的・職業的に自立できる生徒の育成を目指しているということです。今回、1年次の「産業社会と人間」の授業で『進路適性検査わくわく』をご実施いただきました。そこで、グループワークなどの開発・実践経験が豊富な、担当の山﨑茂雄先生に、『わくわく』のご活用状況についてお聞きしました。

東京都立桐ヶ丘高等学校
主幹教諭
山﨑 茂雄

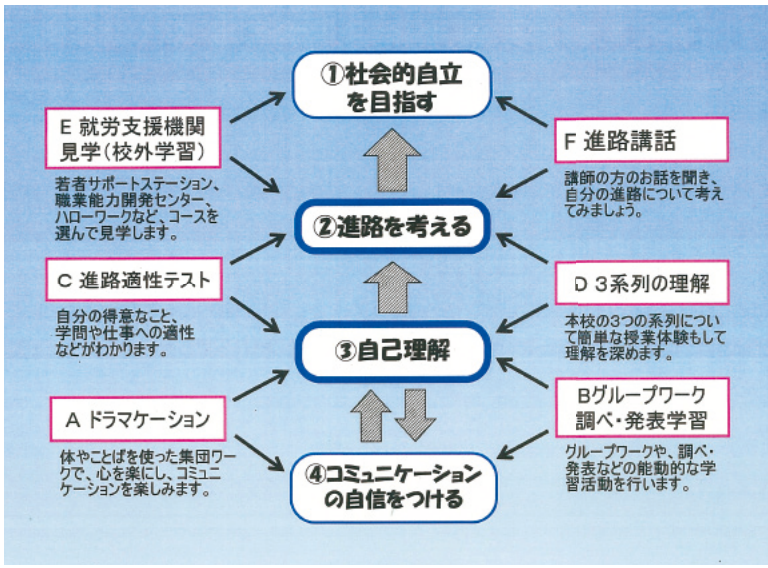
本校のキャリア教育の第一歩は、コミュニケーションづくりから

本校では、「産業社会と人間」が1・2年次の必履修科目になります。私が1年次の主担当になってから、それまでの学習内容を整理し、全体像を生徒に見せようとチャートにまとめました（**右図**）。「自己理解」と「進路を考える」ことが学習のねらいであり、最終的に「社会的自立を目指す」ことが目的となります。それらの目標のためにA「ドラマケーション」、B「グループワーク　調べ・発表学習」、C「進路適性テスト」、D「（選択科目）3系列の理解」、E「就労支援機関見学（校外学習）」、F「進路講話」などの学習活動を位置づけ、「その学習が何の役に立つのか」を生徒が理解できるようにしました。入学直後に、「ドラマケーション」というコミュニケーションのトレーニングでクラスの人間関係づくりを行なった後、「AからFの中でどれが一番学びたいか」をワークの中で考えさせ、交流させると、「進路適性検査」に人気が多く集まりました。内容がイメージしやすいということもありますが、この時点で検査実施へのモチベーションは上がっていました。

「自己理解」の深化と「職業理解」に『わくわく』を活用

『進路適性検査わくわく』は、1年生全員を対象に、5月に実施しました。実施のねらいは「自己理解」と「職業について視野を広げる」の2つです。自己理解というのは、自分の中だけで考えていては深まりません。他者との関わりの中で、他者を鏡として自分を見つめることで深まっていきます。あるいは自己肯定感というのも、自分と他人の違いを知り、多様性に気づくことで、「自分もこれでいいんだ」という前向きな気持ちが生まれてきます。私はこれを「自他理解」「自他肯定」

●「産業社会と人間」のねらいと学習内容



と言います。不登校などの経験を持つ生徒に、自己肯定感を上げ、進路実現と将来の自立への意欲を育てていくことが「産業社会と人間」の重要なねらいになります。そのため、『わくわく』実施後は、単に判定結果をフィードバックするだけでなく、「自他理解」のためのグループワークとして展開するのが、本校の指導のオリジナリティといえます。

『わくわく』の実施後、7月初めに「産業社会と人間」を2時間続けて使い“進路適性検査の結果を見る”という授業を行ないました（**裏面右上表参照**）。授業の中では、自作のワークシートを3枚用意しました。1時間目に、各自で自分の判定結果を読み取り、ワークシートに記入作業を行ないます。そして、2時間目に、別のワークシートでグループワークを行なうという流れで進めました。

“インタビューごっこ”が、判定結果を深く読ませる効果に

1時間目は、自分の判定結果の項目を、一つひとつ確認することが目的になります。そのためのワークシートを2枚用意しました。生徒用「アドバイスシート」から、自分の「進路希望」を書き写し、「興味プロフィール」「性格プロフィール」「能力プロフィール」で高く出ている項目を書き出し、「文理判定マップ」から文理のどのタイプに入るかチェックします。それぞれの結果についての感想も書かせます。次に「職業適性」「大学・短大適性」の判定結果を参考に、付録のガイド『わくわくブック』の中から、自分の興味のある職業分野や学問分野について具体的に書き出す作業を進めます。

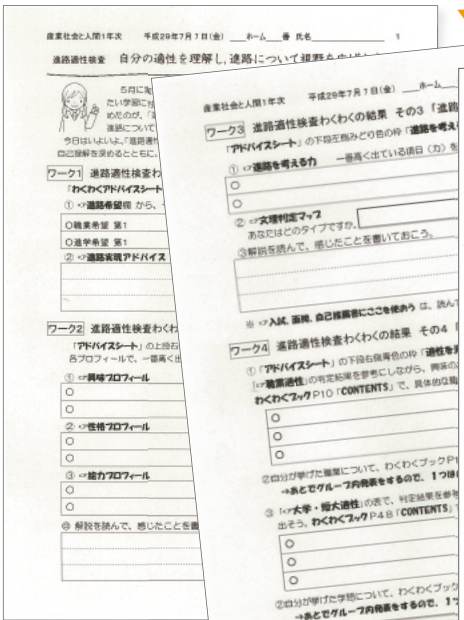
2時間目は、「みんなでワーク」というワークシートを使い（**頁下参照**）グループワークを行ないました。4～5人のグループを作り、一人が話し手に、他の生徒がインタビュアーを受け持ちます。話し手は、1時間目に選んだ興味ある職業名、学問名を発表し、インタビュアーはそれに対して「働く喜びは？」「注意したいことは？」など順番にインタビューしていきます。挨拶から拍手まで、ワークシートにシナリオが書いてあって、答える側も『わくわくブック』を活用して答えるという“インタビューごっこ”の仕掛けです。演じるということで、本人も自分の興味のある職業、学問の内容にについてしっかり読むし、他の生徒も興味を持って聞くわけです。「そんな職業もあるのか」、「適性は人それぞれ違うんだな」などと気づき、視野が広がっていくのがねらいです。生徒は和気あいあいとワークを楽しみつつ、事後には「他人の意見を聞いて勉強になった」といった前向きな感想が多く出ました。ワークシートには、最後に授業の感想を書かせて回収し、担任が目を通した後で各自に返却します。生徒の意欲の高い1年次にこのような自己理解や他者理解を深める授業を行なうということは、その後の進路を、自分で切り開く力をつけるという意味でも、とても大切であると考えます。

●『進路適性検査わくわく』を活用した「産業社会と人間」（1年次）授業展開

実施日	平成29年7月7日（金）　3・4限　5・6限　9・10限
タイトル	進路適性検査の結果を見る
内容	①『わくわく』の結果について、付属の冊子『わくわくブック』を用いて理解を深める。 ②それぞれの適性から、具体的な職業・学問を考え、それについて発表・交流する。
ねらい	①『わくわく』の結果を用いて、自己の適性や進路について考えるきっかけとする。 ②進路について考えた結果を相互交流することで、視野を広げる。 ③発表のワークを通じて、コミュニケーションの自信とスキルを養う
準備	自校作成ワークシート3枚、『わくわくブック』

〈展開例〉

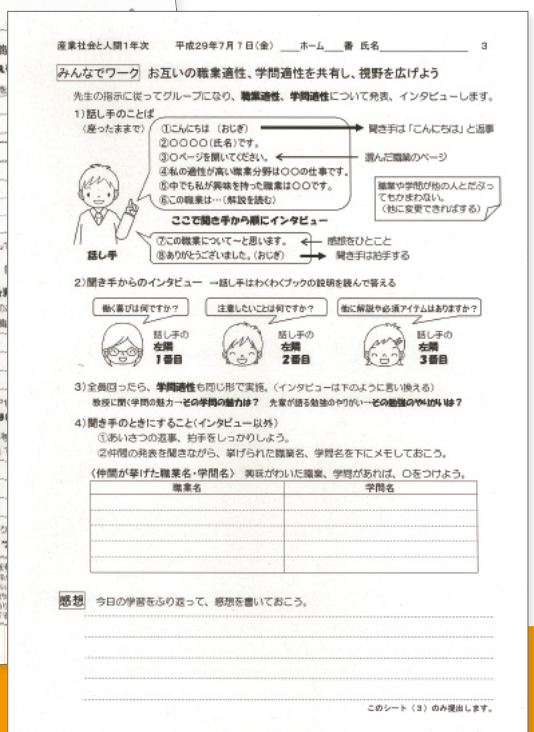
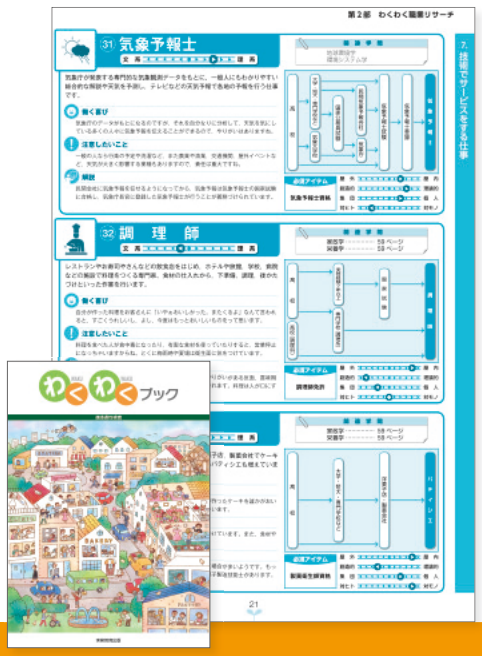
	展開	解説
1限目 10分	準備 10分	・ワークシート1とわくわく「生徒用　アドバイスシート」を配布。 ・順番に少しづつ読んでいくので、いっしょにやっていこうと促す。
25分	ワークシート1 ワーク1・2 記入作業 15分	・作業のしかたを説明して、順に取り組ませる。 ・机間巡視して、戸惑う生徒にアドバイスする。 ・作業が済んだ生徒には、説明をじっくり読むよう指示する。
45分	ワークシート2 ワーク3・4 記入作業 20分	・ワークシート2と「わくわくブック」を配布し、手順を説明して作業に取り組ませる。 ・「わくわくブック」の「職業リサーチ」「学問リサーチ」から1つ選んで発表するので、よく読むように言い、読む時間を確保する。
休憩5分		
2限目 10分	グループワーク準備 10分	・グループ作り。原則4～5人（3人可、6人不可）。人数は均等な方が進行しやすい。なるべく男女混合、ランダムに。机を囲むように座る。 ・ワークシート3を配布し、「みんなでわーく」のやり方を説明し、教員が全員で実演する。 ・あいさつ、返事、インタビュー、拍手をしっかりやってみせる。
35分	ワークシート3 みんなでワーク 25分	・開始後、机間巡視して、あいさつ、返事、拍手などを必ず行うように促す。 ・インタビューは雑談に流れず、形式を守って和気あいあいとできるのが目標。だらけている班には、形式を守るようアドバイスする ・人数の多い班が遅れないように気配りする。
45分	感想 10分	・感想を書いて、ワークシート3のみ提出。 ・ワークシート1・2と「生徒用　アドバイスシート」はファイルに綴じる。「アドバイスシート」は片側だけ綴じて、右半分は畳み折りにさせる。『わくわくブック』はファイルにはさみ込む。



▲ワークシート1

▼ワークシート2

▼ワークシート3「みんなでワーク」



▼「わくわくブック」　第2部　職業リサーチ